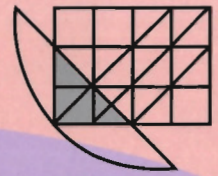


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.22

2017.3

全国で注目を集める和歌山県発の文化財防犯対策！

仏像や神像など、寺社に所蔵される文化財の盗難被害が全国で多発しています。特に和歌山県では、平成22年(二〇一〇)から翌年にかけて連続60件という空前の被害が発生しており、その後も毎年被害が確認されています。

インターネットオークションも含めた骨董・古美術市場の活発な動きの中で、文化財を盗んで売り払う卑劣な犯罪者が出現している一方、地域住民の高齢化や人口減少によって集落内の寺社や祠堂(しどう)を管理する担い手が不足し、犯罪の抑止力が低下してしまっていることが被害拡大の背景にあります。

実際に被害に遭った地域の方々は「まさか盗まれるとは思わなかった」と語られます。身近にあるとその価値に気づきにくいものですが、人々の信仰が積み重なった大切な仏像は地域の歴史そのものであり、そうした歴史を失わないためにも、ただちに防犯対策を講じる必要があります。厳重な施錠とともに、可能なならば警報機、投光器、防犯カメラ等の設置や、別の場所での保管も効果的です。また文化財を写真に撮影し、寸法などの記

録を取って、その大切な価値を日常から把握し、広く共有しておくことも大切です。こうした問題への対策として和歌山県立博物館では、県立和歌山工業高等学校と連携して作製した文化財レプリカを活用する取り組みを、平成24年(二〇一二)から行っています。これは貴重な文化財である仏像や神像を普段は博物館等で保管しながら、信仰環境を維持するために「お身代わり」の仏像・神像を安置するもので、現在県下の10か所の寺社で、21体の仏像・神像を安置しています。



紀の川市・横谷区茶所への仏頭の奉納



高野町・花坂観音堂に安置された阿弥陀如来坐像

文化財の盗難被害が続発する緊急事態において、文化財を未来へ維持・継承するという博物館の社会的役割を、これからも積極的に果たしていきたいと思えます。

なお、作製した文化財レプリカは、和歌山県立博物館エントランスホールなどで、さわれる文化財レプリカとしても展示しています。視覚に障害のある方にも博物館を快適に利用していただく、博物館展示のユニバーサルデザイン化の取り組みです。ぜひ、さわって楽しんで、和歌山の歴史の魅力に触れてみて下さい。

和歌山の歴史を伝える 資料、収集中！

博物館は、資料の収集・保管、調査・研究、展示・教育を行う社会教育施設です。中でも資料の収集は研究や展示の前提ともなる活動であり、寄贈や寄託、購入、借用などのかたちで、和歌山県の歴史を具体的に浮かび上がらせる資料の把握に努めて、収蔵資料の充実を図っています。そうした資料の一つを紹介します。左の写真は、近年館蔵品となった刺繍如意輪観音像です。縦一一・八cm、横四六・三cmを計り、色とりどりの刺繍で、中央に蓮台に座って光背を伴った六臂如意輪観音を表し、上部に「熊野山」の字、下部には願主や結縁者名を表しています。銘記により貞享4年（一六八七）、



刺繍如意輪観音像 和歌山県立博物館蔵

心窓常圓の作と判明しますが、県内には、同じ心窓常圓が貞享2年に製作した刺繍熊野三所権現本地仏像が那智勝浦町の大森寺に伝わっており、また奈良県・法隆寺の刺繍聖徳太子撰政像には元禄3年（一六九〇）「天王寺常圓」の銘があったり、常圓は大坂天王寺住みの繡師であったようです。刺繍如意輪観音像は、熊野地域で如意輪観音が信仰される那智山如意輪堂（現・青岸渡寺）にかつて奉納されたものが、明治時代の神仏分離に際して山外に移動したものと推測されます。県立博物館の展覧会は、このように収集した資料により開催しています。なお平成30年（二〇一八）1月27日（土）～3月4日（日）に開催する企画展「ふるさとからのおくりもの 新収蔵品展」では、寄贈や購入により近年館蔵品として収集した資料をご紹介します。

特別展

東照宮の文化財Ⅱ

— 没後四〇〇年 家康の遺宝 —

4月22日（土）～6月4日（日）

戦国の乱世を勝ち抜き、江戸幕府を開いた徳川家康（一五四三～一六一六）が75歳で亡くなってから四〇〇年が経過しました。元和7年（一六二一）に、家康の子で紀伊徳川家初代藩主・頼宣（一六〇二～一七一）が、和歌山市の南・和歌浦に建立した紀州東照宮は、家康を祭神・



重要文化財 南蛮胴具足
（徳川家康所用）紀州東照宮蔵



重要文化財 藍地花菱唐草文散紋小袖
（徳川家康所用）紀州東照宮蔵

東照大権現としてまつられています。全国各地に分布する東照宮の中でも、御三家の東照宮として別格の存在でした。このような由緒を有するため、紀州東照宮には家康にゆかりの品々が、頼宣をはじめとする人びとによって数多く奉納されています。

このたびの特別展では、紀州東照宮の数多くの文化財の中から、家康ゆかりの資料を選んで展示いたします。家康の生涯とその人物像を、展示した資料から感じ取っていただければ幸いです。



和歌山県指定文化財 東照宮縁起絵巻（大坂の陣）紀州東照宮

特別展

道成寺と日高川

—道成寺縁起と流域の宗教文化—

10月14日(土)～11月26日(日)

文武天皇の勅願により大宝元年(七〇二)に創建されたと伝える、日高川流域の古刹、道成寺。白鳳～奈良時代の千手観音立像(重要文化財)や、わが国屈指の観音像の大作である千手観音および両脇侍像(国宝)などの数多くの優れた仏像が、一三〇〇年の法灯とともに受け継がれています。

何よりその名を世に知らしめているのが、安珍・清姫で有名な道成寺縁起です。『大日本国法華験記』所収の靈験譚をもととした、愛欲の末に蛇身となって追いかける清姫と、逃げる安珍のスリリングな物語は、日高川草子などのバリエーションも生み、能や歌舞伎、浄瑠璃などの諸芸能の題材ともなっています。

このたび、道成寺に所蔵される道成寺縁起絵巻(重要文化財)上下二巻が修復されたことを記念して、その躍動感ある室町時代の縁起絵巻の傑作を、全巻・全期間公開します。あわせて、日高川流域の宗教文化を紐解きながら、道成寺の歴史と優れた文化財の数々をご紹介します。



重要文化財 道成寺縁起絵巻(下巻) 道成寺蔵

企画展

南葵音楽文庫 音楽の殿様・頼貞の楽譜コレクション

12月3日(日)～1月21日(日)

南葵音楽文庫とは、東京の麻布飯倉にあった紀伊徳川家の屋敷内に建てられた南葵楽堂に併設されていた音楽図書館のことをいいます。紀伊徳川家第16代当主・徳川頼貞(一八九二～一九五四)が、イギリスに留学して西洋音楽を学習するかたわら収集した楽譜や音楽書のコレクションが、南葵音楽文庫の中核となっています。現在、南葵音楽文庫のコレクションは、公益財団法人読売日本交響楽団が所蔵していますが、このたび和歌山県に寄託されることになりました。この企画展は、南葵音楽文庫のコレクションのうち、最も貴重な資料約一〇〇点を公開・展示します。



テ・デウム(クレイトン作曲)

公益財団法人読売日本交響楽団蔵(写真提供)



諸国民の歌よりロシアの歌(ペートル・ヴェイン筆) 公益財団法人読売日本交響楽団蔵(写真提供)



歌劇「魔弾の射手」序曲(ウエーバー作曲) 公益財団法人読売日本交響楽団蔵(写真提供)

企画展	企画展	企画展	特別展	企画展	夏休み企画展	企画展	特別展	企画展	常設展
きのくに 縁起絵巻の世界 —開かれる秘密の物語—	ふるさとからのおくりもの 新収蔵品展	南葵音楽文庫 音楽の殿様・頼貞の楽譜 コレクション	特別展 道成寺と日高川 —道成寺縁起と流域の宗教文化—	西行と明恵	夏休み企画展 のぞいてみよう！ えのくぼこ	紀伊徳川家の家臣たちⅡ	特別展 東照宮の文化財Ⅱ —没後400年 家康の遺宝—	躍動する紀南武士 —安宅氏と小山氏—	きのくにの歩み —人々の生活と文化—
3月10日(土)～ 4月15日(日)	1月27日(土)～ 3月4日(日)	12月3日(日)～ 1月21日(日)	10月14日(土)～ 11月26日(日)	9月9日(土)～ 10月5日(木)	7月22日(土)～ 9月3日(日)	6月10日(土)～ 7月17日(月祝)	4月22日(土)～ 6月4日(日)	3月11日(土)～ 4月16日(日)	4月1日(土)～ 10月5日(木) 12月3日(日)～ 3月31日(土)
きのくにの縁起絵巻は、かつて特別な時と場所で、限られた人に開陳されるマジカルアイテムでした。それゆえに、その絵には見るものの心を動かす芸術性が伴っています。和歌山の歴史を語る文化財を紹介し、その物語と絵画表現の魅力をご紹介します。	和歌山県立博物館では、和歌山ゆかりの文化財を後世に伝えるため、購入や寄贈によって、館蔵品の収集を積極的におこなってきました。この企画展では、平成25年度以降に収集した収蔵品を中心に、和歌山の歴史を語る文化財を紹介し、その物語と絵画表現の魅力をご紹介します。	南葵音楽文庫は、紀伊徳川家第16代当主徳川頼貞が20世紀の初めに、ヨーロッパで収集した楽譜音楽書のコレクションです。このたび、読売日本交響楽団から和歌山県寄託されることになったことを記念してコレクションの中で最も貴重な資料約100点を中心に展示・公開します。	大宝元年(700)創建と伝える道成寺は、蛇身とまご追いかける清姫と逃げる安珍のスリリングなストーリーで有名な道成寺縁起で広く知られます。このたび修理完成した道成寺縁起絵巻(重要文化財)の全巻を公開し、あわせて日高川流域の宗教文化を紐解きながら道成寺の歴史と美術を紹介し、その成果を紹介し、紀伊徳川家の家臣たちの実像に迫ります。	ざいとう昔の絵かきさんが使っていた絵具箱、少しのぞいてみませんか？夏休み企画展では、江戸時代の和歌山で活躍した画家の道具と、お手本や下書き、完成作品をあわせて展示します。素敵な絵が作られる過程に出会い、画家たちの息づかいを感じていただければ幸いです。	平安時代の終わりと、鎌倉時代にかけて、日本の歴史を彩った西行と明恵。二人とも紀伊国出身の武士の家に生まれ、出家して僧侶として活動し、大きな足跡を残しています。この企画展では、西行と明恵の足跡を、関連する県内の故地とともに振り返ってみたいと思います。	紀伊徳川家や家臣に関わる美術工芸品や歴史資料は、近世和歌山の歴史と文化を伝える貴重な文化財です。和歌山県立博物館では、積極的にその所在の確認や収集に努めてきました。この企画展では、その成果を紹介し、紀伊徳川家の家臣たちの実像に迫ります。	和歌山市の和歌浦にある紀州東照宮には、御三家の東照宮として、徳川家康ゆかりの宝物が、初代藩主徳川頼宣らによって数多く奉納されています。家康の肖像画、家康が身につけた装束や甲冑、家康の手元にあつた名刀など、貴重な文化財を一堂に公開いたします。家康没後400年を記念して開催します。	紀伊国南部(紀南)では、平安時代の終わりと、以降、熊野水軍など多くの武士が活動していました。この企画展では、日置川流域に拠点をもつた安宅氏や小山氏に関わる資料を中心に、鎌倉時代～江戸時代の熊野の山林や海を舞台にたくましく生きる紀南武士の姿を紹介し、新たな熊野水軍の実像に迫ります。	三万年にわたるきのくにと和歌山の歴史を、人々の生活と文化を主題として、七つのコーナーに分けて時代の順にわかりやすく展示します。各コーナーには、「さわれるレプリカ」があります。なお、特別展「道成寺と日高川」の開催期間中は、常設展示を行っておりません。

お知らせ

◆主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドを用意しています(一般二〇〇円、高校生以下一〇〇円)。常設展については、上級コース・外国語版(英・中・韓)もあります。

◆博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。

URL <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会

現代版画の展開
鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展
なつやすみの美術館7 すききらい、すききらい？
7月8日～9月18日

特別展 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎
10月7日～12月24日

明治100年記念特別展 水彩画家・大下藤次郎展 2月10日～3月25日
※このほかコレクション展や特集展示、和歌山県美術展覧会なども開催されます。

和歌山県立博物館友の会

—平成29年度会員募集—

友の会では、バスツアー、書籍の割引販売などの事業を行っています。
入会のお申し込み・お問い合わせは
友の会事務局 (TEL.073-436-8670)まで。



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

〈特別展 東照宮の文化財Ⅱ〉 (常設展示も行っています)

一般	大学生
個人	510円
団体	410円

〈特別展 道成寺と日高川〉 (常設展示は行っていません)

一般	大学生
個人	820円
団体	660円

〈常設展・企画展〉

一般	大学生
個人	280円
団体	220円

※高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料です。
※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

博物館の利用案内

開館時間	午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日	月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末年始。展示替えにもなつて臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。
駐車場	来館者 1時間まで 来館者以外 以後30分ごと
入館料	来館者 200円 来館者以外 100円

和歌山県立博物館 博物館だより 第22号

編集 和歌山県立博物館
〒640-0813 和歌山市吹上二丁目4番14号
TEL(073) 436-8670
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>
平成29年(2017)3月発行